

Essay

Sapiarc.com

2020年6月15日(2020-1)

樺美智子 60 回忌

今日は、樺美智子の 60 回忌に当たる。私は、この人のことを、10 年前の 2010 年 7 月 5 日のエッセイ（ひとこと）に書いている。

Wikipedia で、彼女のことを調べたところ、彼女が、1956 年に（多分子備校生だったときに）、次のような詩を書いていたことがわかった。ここに引用しておこう。要するに、彼女は純粹過ぎたのだ。

「最後に」

誰かが私を笑っている
向うでも こっちでも
私をあざ笑っている
でもかまわないさ
私は自分の道を行く
笑っている連中もやはり
各々の道を行くだろう
よく云うじゃないか
「最後に笑うものが
最もよく笑うものだ」と
でも私は
いつまでも笑わないだろう
いつまでも笑えないだろう
それでいいのだ
ただ許されるものなら
最後に
人知れずほほえみたいものだ

1956 年 美智子作

(おわり)